

令和3年度
自己評価結果

平安幼稚園

1. 教育・保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 教育方針

本園の教育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 教育目標

- ①読み書きができる賢い子ども
- ②情緒が豊かで明るい子ども
- ③よく考え、進んで行動する子ども
- ④仲良く遊び、協力し合う子ども
- ⑤身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ①健康面に配慮しながら、安心安全な保育を行なう。
- ②園児一人ひとりの個性を活かした保育を行なう。

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	備考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた幼稚園の運営状況	A	
(2) 幼稚園の状況を踏まえた教育目標等の設定状況	B	
(3) 幼稚園の教育課程の編成・実施の考えについての教職員間の共通理解の状況	B	
(4) 学校行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	B	
(6) 遊具・用具の活用	B	
(7) ティーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況	A	
(8) 幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	B	
(9) 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況 ・環境を通して行う幼稚園教育の実施の状況 ・幼児との信頼関係の構築の状況 ・幼児の主体的な活動の尊重 ・遊びを通しての総合的な指導の状況 ・一人一人の発達の特性に応じた指導の	B A B B A	

(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断の実施の状況	A	
(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の学校安全計画や学校防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	B	
(14) 安全点検や、教職員の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	B	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	B	
(17) 園長など管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、 また、多くの教職員からの信頼の状況	A	
(18) 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、幼稚園の明確な運営・責任体制 の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、 また、教職員への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 学校保健法、労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	B	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	B	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	B	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	B	
(25) 指導が不適切である教員の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 教育目標の設定と自己評価の実施状況 ・ 幼児や幼稚園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた幼稚園としての目標等の設 定の状況 ・ 目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・ 自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・ 自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・ 全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・ 自己評価の結果の設置者への報告と状況	A A A A A A	
(27) 幼稚園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・ 保護者の満足度の把握の状況 ・ 教育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A A	

(28) 幼稚園に関する様々な情報の提供状況	A	
(29) 幼稚園公開の実施の状況	A	
(30) 幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 学校評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動の実施状況	B	
(35) 園や教職員による受け入れ体制の状況	A	
(36) 幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮	B	
(37) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・設置者と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況 ・設置者と連携した幼稚園教育の情報化の状況	A	
(38) 遊具・用具・図書等 ・設置者と連携した遊具・用具・図書等の整備状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結果	理由
B	<p>①健康面に配慮しながら、安心安全な保育を行う。 感染症対策を徹底しながら保育を行った。(手洗い・手指消毒・換気・消毒作業) 2学期からはコドモンアプリを活用し園と家庭との連携を図り安心してお子様を預けられるように努め、疑問や不安があればいつでも園との連絡が取れるようにした。 見通しが見つからない状況下ではありましたが、その都度状況に応じて柔軟に計画しながら日々の保育や行事を実施し、多くの保護者の皆様にもご理解いただいた。</p> <p>②園児一人ひとりの個性を活かした保育を行う。 コロナ禍においても園児一人一人に丁寧に接しながら保育を行った。しかし、子どもの困っている様子について先回りし手を差し伸べてしまう場面もあったため子どもの主体的な行動や学び・遊びを妨げないように見守ながら保育を進めることも大切だと感じた。 園児との信頼関係を築くことができ、個々の特性や性格を踏まえ、日々の保育も楽しく進めることができた。コロナ禍ということで保育に工夫が必要であったが、園児のやってみたいという気持ちを尊重しながら遊びの時間を大切に保育を行った。</p>

7. 総合的な評価結果

- ・コロナ禍においても感染症対策に配慮しながら、教職員が一人一人の園児に丁寧に接した。
- ・コロナ禍により、保護者が幼稚園での子どもの様子を見る機会が減っていることや行事の縮小開催、行事内容の変更等を踏まえ、ホームページや動画配信、ライブ配信等による情報・行事開催中の発信を行った。
- ・今年度は行事を縮小したり開催を見合わせるがあった。園生活の集大成となる音楽発表会が中止となり、その中でも子ども達にとって楽しい思い出となるようにと、初めてのアメフト大会を計画し実施した。
- ・デジタル化が進む時代の中、幼稚園では2学期からコドモンアプリの導入を行い保護者への連絡がスムーズに行えるようになってきた。文書についてもアプリ内で掲載することができいつでも確認できるようになった。保護者からの連絡や園からの連絡について次年度はさらにスムーズに対応できると思う。

8. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子ども主体の保育の実践	コロナ禍でも子ども達が安心して園生活を送り、限られた条件の中でも楽しく過ごせる工夫を行う。 色々なことを経験し、園児自ら考えて行動できるような保育計画を行い実施する。
感染症対策を行いながら保育の充実の図る	コロナ禍においても教育方針に沿って日々の保育を進めるよう心掛け、職員研修や行事が実施していく。 コロナ禍により、保護者が直接園での子どもの様子を見る機会が減っているため、保護者に子どもの育ちを理解していただく機会となるような行事内容や保育を行うように努める。

◎「4. 5」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である